

めぐニュース

かぐめよし少年自然の家だより 令和3年10月発行

奥山に 紅葉踏みわけ鳴く鹿の声きく時ぞ 秋は悲しき

百人一首で有名な、猿丸大夫によるとされる歌である。紅葉を踏みわけているのは、人なのか鹿なのかと考えてしまうが、先日、所内のイロハカエデの下を歩いていると、鹿の声が聞こえてきた。そしてこの歌を思い出した。最近、かぐめよしでは鹿を見かけることが多くなった。20年前は、鹿などほとんどいなかった。奥深い山中で鹿の角など拾おうものなら、大喜びしたものだ。ところが今や、子どもたちが遊ぶ、所の前の河原に、夜には所内のわんぱく広場にと、見かけることも特段珍しいことではなくなってきた。つどいの広場にも鹿の糞が落ちていて、夜な夜なお食事に出てきていることが推測される。何を食べているのか、木の皮が齧られていないかなど注意深く見て回ったところ、ネムノキの葉が齧られていた。地域の古老によれば、鱒淵ダム（昭和48年3月竣工）の工事が始まるまでは、鹿が沢山いたと。（古老の）親たちが、工事の際のダイナマイトの爆発音を嫌うのか、鹿を見かけなくなったと言っていたとのこと。猪は里山に、鹿は奥山に住み分けていたのは昔の話。里山から追われた猪が山に進出し、戻ってきた鹿と競合を始めた、かぐめよしの自然は、今後どのように変わっていくのか・・・ものの本によると、競合するとだんだん猪が減って、鹿が増えだすところが多いらしい。

かぐめよしにやって来る子どもたちに鹿の声を聞いたことがあるかと尋ねても、皆、ないと答える。所に鹿が出てくるという話を、子どもたちは目を輝かせて聞く。

澄んだ鳴き声から鹿を連想し名付けられた河鹿ガエル。また、鹿の身体の模様（鹿の子模様）に似てるとして、鹿子（カゴ）の木、鹿の子草など、鹿に由来がある動植物の名は多い。昔、鹿はもっと身近な生き物であった。鹿による農産物の被害など、悩ましいことはたくさんあるが、せめて、子どもたちに、生き物に、植物に目を向けるきっかけになってくれたらと願う。



主催事業のお知らせ 11月～1月

市政だより掲載号	事業名	日程	対象者・人数
10/15号	秋の福智山登山「リンドウを見よう」	11月15日（日）	小・中学生と保護者 20人
11/1号	クリスマスリース作り	12月6日（日）	小・中学生と保護者 7家族
11/15号	ぺったんぺったんお餅つき	12月12日（土）～ 12月13日（日）	小・中学生と保護者 15人
12/15号	放置竹林対策事業	1月24日（日）	大人（18歳以上）10人

応募は市政だよりをご覧ください。

頂吉図鑑

～第45回～

メタセコイア

所のシンボルツリーとして、真っ先に入所者に紹介するのは三桧です。地域の歴史とも結びついており、疑う余地もない第1等であります。が、一方で入所者の目を一番引いて、その大きさから存在感をアピールしているのは、メタセコイアで間違いありません。ということで今回ご紹介するのは、メタセコイアです。

メタセコイアは生きた化石と呼ばれますが、これには、ある日本人の学者にまつわる話が元にあります。太平洋戦争直前に、大阪市立大学の三木博士が、化石として見つかったセコイアの仲間の中に、葉の付き方などが違う、新種を発見し、メタ(変わった)セコイアと命名し、発表しました。その後、中国の研究者が、現在の湖北省にご神木と言われていた樹が、既に絶滅したとされていたメタセコイアであることを発見しました。それが縁で、日本にも苗木が送られ、今や公園や学校など様々な場所で見かけるようになりました。



かぐめよしの敷地には、同じくらいの大きさに育った樹が3本あります。開所当時に植えたとする記録はなく、当時の写真にも写っていないので、樹齢は五十年には満たないと思うのですが30メートル近くはあります。

この樹は、落葉針葉樹で、秋になると美しく紅葉します。その姿から曙杉という日本名がつけました。冬になると側枝ごと葉が落ちるので、一見複葉に間違えますが、小さな葉ひとつひとつが単葉で、バラバラになります。これが曲者で地面がオレンジ色に染まるのはいいとして、こまかい隙間、ありとあらゆるところに入り込めます。面白いのは、葉が落ちたあとも樹は曙色のままで、知らない人は、まだ紅葉が残っていると思ってしまふほどです。じつは、たくさんの雄花のつぼみが曙色なのです。三月になると、花粉が煙のように飛びます。松ぼっくりのような球果が樹のてっぺん付近にたくさんつきます。種子を遠くに飛ばすためでしょうか、下の枝には、一つもついていません。種子は翼果で、結構簡単に芽がでます。なのに日本で一度絶滅してしまったのは、気候変動によるものといわれています。

異常気象のニュースが毎日のように報道される中、メタセコイアの葉は、今年も少しずつ色づいていきます。



北九州市立かぐめよし少年自然の家

住所：〒803-0267

北九州市小倉南区大字頂吉451-1

電話：(093)451-3111 FAX：(093)451-3133



Instagram



Facebook



主催事業報告



水環境体感キャンプ事前研修会



7月4～5日で行われる予定だった水環境体感キャンプ事前研修会は、荒天が予想されたため、5日のみの日帰り実施となりました。班会議、装備の採寸、川歩きの実践と盛りだくさんの内容で、短い時間でしたが、15名の団員の絆も深まり、8月の本番に向けて、期待を膨らませているようでした。

水環境体感キャンプ

8月1日から始まった「水環境体感キャンプ」には事前研修会に参加した15名の団員が参加しました。

桜橋を出発した団員は、3泊4日、テント泊での宿泊地を変えながら、目的地の紫川の起点へと向かいました。

途中、様々な植物や星、化石などの事を学びながら元気に川を上っていき、日を追うごとに仲間同士の団結力が強くなり、笑顔の絶



えない4日間になりました。

ボランティアさん達にも支えられ、猛暑の中、誰1人欠けることなく歩き切りました。「来年もまた来たい！！」という声の多かった大冒険。最高の思い出になったらいいですね。

Mizukankyo
Taikan Camp
22.4km 29m→181m
2026.8.1-8.4

第3回かぐめよし自然少年団

8月29日～30日の2日間、「第3回 かぐめよし自然少年団」を開催し、18名の団員が参加しました。

少雨の影響により、当初予定していたダム力ヌーは残念ながら中止となりましたが、2日間にわたり、紫川最上流部で本物川体験を行いました。川遊びや「幸せの石探し」、生き物調査など、自然を満喫できる充実した活動となりました。夜には、恒例の試胆会を実施しました。隊長の怖い話を聞いた後、真っ暗なサイクリングロードへ出発しました。時折、悲鳴を上げながらも、楽しそうに進む団員たちの姿が見られました。予定変更はありましたが、自然と触れ合い、仲間との絆を深める、充実した2日間となりました。



家族でキャンプだホイ！



9月5～6日に開催した「家族でキャンプだホイ！」は7家族26名の参加となりました。初日は天気に恵まれ、冷たい川の水を浴びながら生き物を探したり、幸せの石探して川体験を満喫しました。夜はキャンプファイヤーを行い、♪キャンプだホイ！キャンプだホイ！キャンプだホイホイホイ！の歌声とともにレクリエーションで盛り上がりました。二日目はあいにくの空模様となり、川体験は断念しました。それでも「そうめん流しは是非したい！」と念じていたらなんと天気が回復！！自分たちで竹を割ってレーンを作り、自作の器でそうめん流しを堪能することができました。家族同士の交流も深まり、あっという間の2日間でした。

第1回はじめての陶芸教室

10月3日～4日に「第1回 はじめての陶芸教室」を開催しました。今回は4家族10名が参加し、そのほとんどが初めての陶芸体験となりました。

まずは、来年の十二支である羊をモチーフにした土鈴作りに挑戦しました。夕食にはおいしい食事を楽しみ、その後はISS（国際宇宙ステーション）の観測を行いました。夜の観測を楽しんだ後は、再び陶芸に取り組み、マグカップや大皿を制作しました。慣れない作業に四苦八苦しながらも、参加者の皆さんは工夫を凝らし、それぞれ思い思いの作品を作り上げました。陶芸と天体観測を通して、ものづくりの楽しさや自然に親しむ時間を満喫した2日間となりました。



紫川だれでもカヌー

10月12日、気持ちのよい秋晴れの中、第25回紫川だれでもカヌーを開催しました。青少年や障がいをもつ方とその家族を対象にしており、多くの方にご参加をいただきました。

また各方面から、サポートスタッフも参加していただき、より充実した活動になりました。



カヌーやメガ SUP、生き物探しなど、それぞれが川を楽しみ、河原にはたくさんの笑い声が響き渡っていました。最後は恒例のビンゴ大会で盛り上がり、みんなが笑顔あふれる事業となりました。毎年、この事業を楽しみにされている方もいらっしゃるようで、こちらも大変うれしい限りです。ありがとうございました。